

創造・参加・実践
No.717

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合
〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西 阪 急 ビ ル 9 階
TEL06-6375-9869(代) JR071-7155(代)
(FAX)06-6373-4133 JR071-7151

発行責任者 上村 良成
編集責任者 田中 佑佳

2023春闘妥結

全社員に対して3年間の労苦に報いる賃金引上げ!! 地上職の処遇改善につながる手当の増額・拡大も勝ち取る!

2023春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

JR西労組中央闘争委員会は、3月15日に2023春季生活闘争の最終交渉に臨み、基準昇給の完全実施、ベースアップ3,000円(シニア・シニアリーダー社員含む)、契約社員の時給20円引上げ、年間臨給4.2箇月分、初任給調整手当による初任給の引上げ、C5級・C4級の一部に対して在級年数に応じた初任給調整手当の適用、深夜勤務等手当の増額、災害等特別出勤手当の増額、車両系統への動物遺骸処置等給付金の対象作業の拡大、資格取得一時金制度の見直しの回答と、再就職支援制度の拡大を検討する旨の口頭表明を受けた。これらは、ベースアップ3,000円の満額回答をはじめ、若年層や地上職に光があたり、組合員の3年間の労苦に報いる回答であると、一定判断し、本日妥結した。

JR西日本の通期業績予想は、新型コロナウイルス感染症の影響の縮小に伴うお客様のご利用や個人消費の回復等により3期ぶりの黒字決算になることが想定されているが、動力費の大幅な増加や長期間に及ぶコロナ禍での資金調達により、長期債務残高は1兆6,841億円まで増加し、その利払いなどの負担が大きく、依然として厳しい経営環境となっている。

2023春季生活闘争は、「3年間の労苦に報い、反転攻勢に向けた原動力となる賃上げ」「離職と採用競争力の低下に歯止めをかける賃上げ」「将来を担う人材への投資となる賃上げ」を実現すべく、年度初の基準昇給の実施、ベースアップ3,000円、年間臨給5.0箇月、職務手当の改善、若手組合員の離職防止と採用競争力向上のための初任給の引き上げとそれに伴う賃金カーブの見直し、地上職への手当の新設や環境改善等の方針を掲げ、精力的に交渉を積み重ねてきた。私たちはこの間、経営の強靱化に向けた組織構造改革や変化対応力向上など様々な施策に協力し、業務の効率化や超過勤務の削減、一時帰休、グループ内・外への出向をはじめとするあらゆる経費削減に取り組み、確実に成果を上げてきた。そしてこの3年間、年収の減少や物価上昇等により組合員の生活は厳しさを増しており、生活不安に加え、将来への不安が高まったことから、人材の流出に歯止めがかからず、安全や経営を支える基盤が崩れかねない状況となっており、「働きの価値に見合った賃金水準への引上げ」が必要であると強く主張してきた。

こうした私たちの強い主張に対して、会社は最終回答で「これまでのコロナ禍において、日々業務に精励し、鉄道のオペレーションを支えていただいていることに心より感謝申し上げます。この厳しい経営状況の中、相当高い水準の待遇改善を決定したのは、コロナ禍において皆さんが努力を積み重ねてきたことに報いるとともに、皆さんがこれまで以上に新たなチャレンジに意欲をもって取り組んでいただくためであり、さらなる安全性の向上やお客様視点でのサービスの向上、業務の改善等に向けた皆さん一人ひとりの考動を組織として存分に活かし、より力強いJR西日本グループを作っていく」との考えを示した。

今回の回答は、ご利用が回復傾向にあるものの、コロナ前の9割程度に回復するとの想定に対して、未だその目標に届いていないことや、動力費の大幅な増加や、200億円を超える長期債務の利払いがあることなど、構造改革が進む中においても今なお厳しい経営状況の中、連合が設定するヤマ場より早い、3月10日に基準昇給の年度初実施、ベースアップ3,000円、初任給調整手当による初任給の引上げなどの回答を引き出すことが出来たことは大きな成果と言える。そして、3月15日の最終回答で、年間臨給4.2箇月(昨年から1.06箇月上乗せ)、地上職への処遇改善として、深夜勤務等手当の増額、災害等特別出勤手当の増額、動物遺骸処置等給付金の対象作業の拡大、資格取得一時金制度の見直しを勝ち取ることが出来た。期末手当については、現下の状況においては、精一杯の回答であると判断するが、私たちの要求は5.0箇月であり、コロナ前の水準には至っていない。2023年度は、新たな中期経営計画、安全考動計画の初年度であり、うめきた(大阪)地下駅の開業や奈良線複線化工事等のビックプロジェクトの効果や来年3月の北陸新幹線敦賀延伸などを踏まえ、然るべき時期に「一時金」を要求する。

最後に、今春季生活闘争も徹行行動やフォトモザイクなどへの積極的な参画により、中央闘争委員会を精力的に支えていただいたすべての組合員と家族の皆様へ心より感謝申し上げます。

今後も「安全」を基礎に、JR産業の魅力と将来に希望の持てる会社に取り戻す決意を明らかにし、2023春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会の見解とする。

2023年3月15日

西日本旅客鉄道労働組合(JR西労組)
2023春季生活闘争中央闘争委員会



交渉の席上、上村中央闘争委員長は「2023年度は新たな中期経営計画、安全考動計画の初年度であり、北陸新幹線敦賀延伸、うめきた新駅、奈良線複線化のビックプロジェクトの効果も期待されることから、然るべき時期に一時金を求める」と述べた。

中央闘争委員会は3月15日、10時30分から交渉に臨んだ。コロナ禍を必死に耐えてきた組合員の切実な声を胸に最後まで交渉を続け、全組合員の賃上げにつながる回答を引き出した。中央闘争委員会ならびに地本代表者会議にて、確認し妥結した。

中央闘争委員会へのご支援に感謝申し上げます

失ったものを取り返す 一歩となる成果を引き出す

【主な妥結内容】

- 基準昇給の完全実施
- ベースアップ3,000円 (シニア・シニアリーダー社員含む)
- 年間臨給4.2箇月
- 契約社員の時給20円引上げ(3,200円相当)
- 「初任給調整手当」の支給 (C5級およびC4級の一部社員)
- 「深夜勤務等手当」の増額並びに区分の見直し
- 「災害等特別出勤手当」の出勤 1回あたりの支払額を1,000円増額
- 「動物遺骸処置等給付金」について、車両トイレの便器や汚物配管の着脱作業を行う車両系統社員を給付対象に
- 「資格取得一時金」は受験料+20,000円を支払う 「チャレンジ一時金」は受験料を全額支払う

【口頭表明】

- 再就職支援制度の拡大を検討する

一口メモ

ベースアップの効果

ベースアップの効果は基本給以外にも及ぶ

基本給が増加するとそれに付帯して...

- エリア手当 UP
 - 割増賃金単価 UP
 - 退職金算定基礎額 UP
 - 年間臨給基礎額 UP
- も増加する

例) Aさんの場合 年齢25歳(退職まで35年)
福岡支社勤務(エリア手当5%)

基本給: 3,000円×(12箇月×35年)=1,260,000円
 年間臨給: 3,000円×1.05(エリア手当分)×(平均5箇月と仮定)×35.5年=559,125円
 エリア手当: 3,000円×5%×(12箇月×35年)=63,000円
 退職金: 3,000円×60(係数)×0.7(3割が第2基本給へ)=126,000円

3,000円のベースアップによって退職までに200万8125円の効果
ベースアップは退職するまで継続して効果がある

安全・安定輸送に日夜奮闘している組合員と家族のためにも、みんなで力を合わせて難局を乗り越えよう!!